

【平成23年度】

町長と話しませんか開催結果報告書 NO. 1

申込団体名	サンキューの会
代表者氏名	会長 吉田 一紀
日 時	平成23年10月6日(木) 午後2時30分から午後3時10分まで
場 所	サンキューの家(旧消防庁舎)
団体参加人数	20名
町側出席者	水沼町長 福祉部福祉課 佐藤課長、高齢・介護福祉担当 半田主幹 総務部財政課 竹中課長
懇談概要	<p>サンキューの会 吉田会長の挨拶、町長挨拶後に懇談会開始。中根事務局長の進行により事前に提出いただいた質問事項について回答しました。</p> <p>【まちづくりとボランティア活動について】</p> <p>1. 町としてのボランティア活動の位置づけについて (町長)</p> <p>社会福祉協議会にとってもボランティアの方々がいなければ、活動自体が成り立たない状況にあります。また、今後、急激に高齢社会が進み、それに伴い、障がい者を含めて支援の仕方も複雑になります。</p> <p>町として、ボランティア活動の大事さ、自主的に活動できるような説明・啓発活動を町民へ行っていかなければなりません。</p> <p>また、ボランティアの位置づけとして、これからの地域福祉の向上や安心して暮らせる地域社会を創っていく意味では極めて重要であります。</p> <p>2. 全町民の1割をボランティア人口とするまちづくりを目指すことについて、現在の考え。</p> <p>3. ボランティア人口の把握はしているか。</p>



(福祉課長)

町では直接的な制度はありませんが、ボランティアセンターを運営している社会福祉協議会に助成して間接的に活動を支援しています。

ボランティアセンターでは9月末時点で、19団体467名、個人30名が登録をしています。学校関係の支援については、11団体と個人65名が登録しており、保健課のレクリエーションリーダー養成講座には30名が登録しております。

このほかにも、子育ての支援や地域の清掃活動、技能士会による施設の修繕活動も行っていますが、未登録のため人数は掌握しておりません。

以上が現在のボランティア人口であり、全町民の10%には満たないですが、全町民の4%ほどの方々がボランティアとして登録しております。

4. 配食サービスについて

(福祉課主幹)

本事業は高齢者や障がい者の調理が困難な世帯を対象とし、栄養バランスの摂れた食事を配食し、配食を通じて安否の確認をするという2つの目的があります。

現在、社会福祉協議会と道東あさひケアセンター西春別に配食サービスを委託しており、18名の利用者がいます。

申請窓口は、福祉課高齢介護福祉担当が行っており、総合相談については地域包括支援センターのケアマネージャーが相談を受けている。

(サンキューの会)

配食は、ボランティアの人が行っているが、ボランティアがいない時は委託業者が全て配食をしている。ボランティアの人数がたくさん居たらお互いに助かると思うので、多くのボランティアの方に参加してもらいたい。

さらに女性の方は、自分の家の夕食作りと時間が重なり大変であり、男性の方にも関心を持っていただきたい。

また、土・日曜日の2日間は、家族等が居るためサービスを行っていないのかもしれないが、利用者の食事の面が気になり、配食サービスを提供しなくてもいいのかというところに疑問がある。

(福祉課主幹)

ボランティアをしてみたいという人はたくさんいるが、配食サービスについては、週5日間となるため時間を拘束されるという形になり敬遠されています。

配食の回数については、道東あさひケアセンター西春別では月曜日から土曜日のうちの5日間と、祭日もサービスを提供している。社会福祉協議会ではボランティアが主体となっていて、協力を仰いでいかなければならないところですが、土・日曜日の配食となると、ボランティアの方の休日が限られてしまうという現状を聞いております。このようなことから、配食の回数やボランティアの人数を増やす事は現在厳しい状況にあります。

また、男性の方にもボランティアに加わっていただく事で、女性の負担が軽減されていくのではないかと考えております。

【居場所づくりの取り組みについて】

1. 地域の居場所として、ボランティアだけでなく広く町民が集える場所づくりを目指している。今後も、建物等の提供をお願いすることはできるのか。

(サンキューの会)

現在使用している旧消防庁舎は、補修をして雨漏りしないようにしている。2・3年程度ならいいが長く使うとなると非常に不安がある。

広報に、特別養護老人ホームとデイサービスセンターが建替えになると掲載されていたが、その建物をそのまま活用したいとも考えた。



(財政課長)

旧消防庁舎は現在、町有財産として管理していて、施設に危険がない限りは使っていただくことはできますが、生活弱者や社会的弱者の生活拠点として提供できる施設は今のところございません。一般住民を含めて集う場を求めるのであれば、町では公共的施設として公民館やふらとなどの集会施設があります。

特別養護老人ホーム等の施設の跡利用については、新たな施設の建設計画をこれから進めようとしている段階であり、代替施設を残す場合の補助金の問題や様々な細かい問題がありますので、ここでの即答はできません。

(福祉課長)

来年3月に、スワンの家の共生型施設が完成します。その中に子どもから高齢者まで集えるスペースがありますので、ぜひ利用していただきたい。(利用料無料)

(サンキューの会)

現在使用している施設は自由に使うことができるが、公民館やふらとなどは利用料がかかり、働いている人たちもいるため自分達の思うような時間帯で使用できない。他のボランティア団体も同じ状態なので利用金額を免除していただければありがたい。



(町長)

現在、減免規定が定められているため、“すぐに”ということにはならないが、今後、条例改正を含めて検討させていただきます。

【地域福祉を支える人材育成について】

1. 災害時ボランティアの育成についてどのように考えているか。また、独居高齢者世帯の把握と災害時の対応等、訓練等の構想はあるのか。

(福祉課主幹)

現在、災害時における要援護者制度を立ち上げております。避難協力者の台帳を整備しながら個人及び町内会の協力を依頼していますが、ボランティアの育成面では現在取り組んでいません。

昨年、災害時の支援体制の流れを体系化したものがありますが、訓練構想については具体的に行っていないのが現状であり、今後、災害時における本部の防災交通担当と連携を密にして実施に向けて検討していきたいと思いません。

(サンキューの会 会員)

役場職員は色々な事が分かっているが、私達町民にはどのようにして周知するのか。

(福祉課主幹)

個人情報に関係もあり、各町内会を通して依頼しています。

各町内会長が台帳を持っていますので、そちらの方から連絡がいきます。



(サンキューの会)

別海町の避難場所の提示は他町より少ないが、今後もっと増やすことや大きくする計画はあるか。

(町長)

現在のところ具体的な計画はありませんが、そのような指摘があるので今後改善をしていく事が大事であるため検討したい。

【その他、意見等】

(サンキューの会発言要旨)

1. ボランティア人口の目標について

ボランティアの種類は、福祉活動が中心の場合や学校支援のボランティアもある。また、「明るいまちづくり・地域づくり」で町内会活動をしている役員もボランティア活動になるので、ボランティア人口として人数に入れても良いのではないかと。

2. 居場所づくりについて

中央公民館が新しくなるようだが、早く建設して欲しいという希望がある。また施設の中に社会教育団体やボランティア団体が集まり議論や会合をするための、使用料がかからない部屋を用意してほしい。

3. 高齢者が取り組めるボランティア活動の仕組みづくりについて

町内会の中で話を出していく事も必要かと思うが、町で働きかけをしたり、元気な高齢者がボランティア活動ができる仕組みをつくってもらいたい。

(町 長)

2. 居場所づくりについて

新しい公民館の検討に入っていますが、できるだけ早い時期に実現させたいと思っています。その中で、今話があった件についても検討していきたい。

3. 高齢者が取り組めるボランティア活動の仕組みづくりについて

大成地区の話ではありますが、大成の寿クラブに連合町内会から助成し、会館等の環境整備を行っていただいております。地域の中には色々な役割があると思うので、ぜひ別海の町内会でも提案していただきたい。高齢者の皆さんは色々なプロが揃っていますので、町内会としても町としても財産でありますので活躍する場がたくさんあると思います。